

軍人、軍属ヲ滿洲北清及露領沿海州ニ
派遣スルコトヲ得

支那
非也通商五箇
九月四日

支那

王公族ノ國法上ノ地位及皇室典範トノ
關係

一 王公族ハ皇族ニ準スヘキモノ
ナリ

王公族ノ國法上ノ地位ハ韓國併合條約
第三條及第四條並併合ノ際公布セラレ
タル優遇詔書ニ依リテ定マル即チ條約
ニ於テハ、相當ナル尊稱威嚴及名譽ヲ享
有保持スルコトヲ約シ詔書ニ於テハ「特
ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ世家率循ノ道ニ

至リテハ別ニ其ノ軌儀ヲ定ムルノ殊典
ヲ照ニシ給ヘリ是レ王公族ヲ待ツニ一
般皇族ニ準スル國法上ノ待遇ヲ以テス
ルノ意ナリト解スルヲ妥當ナリトス加
之妃ト云ヒ殿下ト称スルハ固ト皇族ニ
ノミ許サレタル敬称ナルニ拘ラス特ニ
王公族ニ殿下ノ敬称ヲ用牛シメ又配匹
ヲ王妃太王妃王世子妃公妃トナシタル
ニ鑑ミルモ其ノ地位皇族ニ準スルノ趣
旨ニ外ナラス換言スレハ王公族ノ國法

上ノ地位ハ皇族ニアラス又一般臣民ニ
モアラス皇族ニ準スヘキ特殊ノ地位ニ
在ルコトハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ
之ヲ從來ノ實例ニ照スニ李王家ニ関ス
ル事務ハ李王職官制ヲ初メトシテ李王
家ノ經費支辨ニ関スル事項ニ至ル迄勅
令ヲ以テ規定シタルコトナク總テ皇室
令ヲ以テ規定セリ是レ公武令第五條ノ
第三ニ依リ李王家ニ関スル事務ヲ皇室
ノ事務ト認メタルニ因ルモノニシテ王

公族ヲ以テ皇族ニ準スヘキモノト看做
シタルノ結果ナリトス
現ニ陸軍大臣ヨリ上奏シテ勅裁ヲ經テ
ル王公族ニ武官ヲ附属セシメラルル件
ニ於テハ其ノ威儀整飾ヲ奉助スル為皇
族ニ準シ左記ノ通王公附武官ヲ附属セ
シメラルルト明記セルアリ又併合ノ際公
布シタル總督ノ諭告ニ於テモ自今前韓
國ノ皇帝陛下ハ昌德宮李王殿下ト称セ
ラレ皇太子ハ王世子トナリテ後嗣長ヘ

ニ相継承シ萬世無窮タルヘク太皇帝陛
下ハ德壽宮李太王殿下ト称セラレ茲ニ
皇族ノ禮遇ヲ賜ハリト明記シ王公族ノ
皇族ニ準スヘキノ意義ヲ一般ニ宣示セ
リ

以上ノ實例ヲ以テスルモ王公族ノ國法
上ノ地位ハ併合ノ當時ヨリ嚴然トシテ
定マリ毫モ疑ヲ容ルルノ餘地ナシ

二 王公族ニ関スル事項ハ皇室令
ヲ以テ規定スヘシ

皇室典範増補第七條に「皇族ノ身位 其
ノ他ノ權義ニ関スル規定ハ此ノ典範ニ
定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム」ト規定
セルハ即チ皇室令ヲ認メタル基本條項
ナリ而シテ王公族ハ皇族ニ準シテ取扱
フヘキコト條約及詔書ノ明證スル所ニ
シテ王公族ノ身位權義ニ関シ皇室令ヲ
以テ規定スルコト固ヨリ當然ノ徑路ナ
リ然ルニ之ヲ駁スル者ハ詔書中「待ツニ皇族
ノ禮ヲ以テス」トアルハ單ニ皇族ノ禮遇

ヲ與ヘタルニ止マルモノト解釋シ王公
族ニ関スル事項ハ一般法規ヲ以テ規定
スヘキモノト論シ朝鮮民事令及刑事令
立案ノ際ニ於テ各種ノ法令ニ皇族トア
ル文字ハ當然王公族ヲ包含セサルモノ
ト前提シタリト説キ唯タ王族ニ對シテ
ハ若干特別ノ待遇ヲ為スノ必要アリト
認メテ民事令刑事令中ニ之ヲ規定ヲ設
ケタリトナシ尚公族ニ付テハ特別ノ規
定ナキヲ以テ全然普通朝鮮人ト其ノ取

扱ヲ同フスト解釋スルニ至レリ是レ王
公族ノ國法上ノ地位ヲ論スルニ當リ待
ツニ皇族ノ禮ヲ以テスノ一節ヲ捉ヘテ
唯是レ禮遇ニ止マルノミト解シタルカ
為ニシテ條約及詔書ノ全般ニ涉リ王公
族ノ國法上ノ地位ヲ論究セサルヨリ生
スルノ誤謬ナリ條約第三條第四條ノ規
定ニ照ラスモ將タ詔書全文ノ趣意ヨリ
推スモ其ノ精神ハ固ヨリ觀瞻ヲ飾ルノ
虚禮ニ非スシテ其ノ身位權義ニ於テ皇

族ニ準セラレタルハ明瞭ナリトス殊ニ
詔書ニ世家率循ノ道ニ至リテハ別ニ其
ノ軌儀ヲ定ムヘキ旨ヲ宣明セラレタル
意義ヲ推覈スルニ王家ノ遵由スヘキ法
規ハ特ニ之ヲ制定シ一般人民トハ其ノ
換テ一ニスヘカラスコト殆ント疑ヲ
容ルルノ餘地ナシ
之ヲ駁スル者ハ曰ク王族ハ當然皇族ニ包含
セラルルモノニアラス故ニ民事令刑事
令中皇族ニ関スル事項ヲ準用シ特別ノ

待遇方法ヲ認メタルモノト論スルモ前
述ノ如ク民事令刑事令ハ原則トシテ王
公族ニ適用セサルヲ主旨トシテ制定セ
ラレタルモノニシテ現ニ訴訟法中皇族
ノ特權トシテ規定セシ事項ヲ其ノ儘王
公族ニ準用シ又刑法中皇族ニ對スル不
敬罪ヲ王公族ニ準用シタルハ即チ王公
族ヲ皇族同様ニ取扱ヒタルノ明証ニシ
テ偶々朝鮮ニ於テ王公族ニ関スル事件
ヲ普通人民ノ場合ト同様ニ取扱ヒタル

ハ法制未タ定ラサル草創時代ニ於ケル
不得已ノ處置ト見做ササルヲ得又曩ニ
大正二年九月京城地方法院カ李王ニ係
ル財産權上ノ訴訟ニ於テ李王職長官関
丙誣ヲ被告トシテ訴訟ヲ受理シ被告ノ
表示ニ付何等疑フ所ナク其ノ儘之ヲ審
理判決シタルカ如キハ王公族ニ對スル
裁判所ノ見解必スシモ一定シタルモノ
ニアラサルヲ知ルニ足ルヘシ
要スルニ詔書ニ所謂世家率循ノ道トハ

王家ノ準用スヘキ法規ノ謂ニ外ナラス
又別ニ其ノ軌儀ヲ定ムトアルハ皇族ニ
準スヘキ特殊ノ地位ニ鑑ミ一般臣民ヲ
羈束スルノ法規ニ據ラズシテ特別ナル
形式ヲ取ルヘキ意義ヲ明ニシタルモノ
ナリ故ニ王公族ノ身位権義ニ関スル事
項ハ皇室令ヲ以テ律スルノ至當ナルコ
ト論ヲ待タス

尚公族ハ王族以外ニシテ普通人民ト同
様ノ取扱ヲ受クヘシトノ説アレトモ王

族公族ハ其ニ韓國ノ皇室トシテ一家ヲ
作スモノニシテ縦ニ其ノ名稱ヲ異ニス
ルモ等シク皇族ニ準スヘキモノタルコ
トハ條約及詔書ノ上ニ明白ニシテ別ニ
論駁スルノ必要ヲ認メス

三 王公族ノ國法上ノ地位ヲ明ニ
セムカ為皇室典範ヲ改正セム
トスルハ失當ナリ

皇室典範制定ノ際發セラレタル詔書ニ
曰ク

惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マ
リ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當
リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシテ皇家ノ成典
ヲ制定シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニス
ヘシ

皇室典範義解ハ之ニ註釋ヲ加ヘテ曰ク
祖宗國ヲ肇メ一系相承ケ天壤ト與ニ
無窮ニ垂ル此レ蓋言説ヲ假ラスシテ
既ニ一定ノ模範アリ以テ不易ノ規準
タルニ因ルニ非サルハナシ今人文漸

ク進ミ遵由ノ路必憲章ニ依ル而シテ
皇室典範ノ成ルハ實ニ祖宗ノ遺意ヲ
明徴ニシテ子孫ノ為ニ永遠ノ銘典ヲ
貽ス所以ナリ

皇室典範ハ皇室自ラ其ノ家法ヲ條定
スル者ナリ故ニ公式ニ依リ之ヲ臣民
ニ公布スル者ニ非ス而シテ將來已ム
ヲ得ナルノ必要ニ由リ其ノ條章ヲ
更定スルコトアルモ亦帝國議會ノ協
賛ヲ經ルヲ要セサルナリ蓋皇室ノ家

法ハ祖宗ニ承ケ子孫ニ傳フ既ニ君主ノ任意ニ制作スル所ニ非ス又臣民ノ敢テ干涉スル所ニ非サルナリ

皇祖宗國ヲ肇メ一系相承ケ天壤ト與ニ窮リ無シ是レ我不文ノ大典ナリ皇室典範ハ實ニ其ノ意ヲ明ニシ子孫ノ為ニ遵由ノ路ヲ規定セラルタルモノニシテ乃チ皇家ノ成典ナリ故ニ祖宗ノ皇統以外ノ身位ヲ有スルモノニ関シテハ絶對ニ之ヲ皇室典範ニ規定スヘキモノニアラ

ス又皇室ノ家法ハ之ヲ祖宗ニ承ケ子孫ニ傳フ君主ノ任意ニ制定スル所ニ非サルナリ故ニ韓國併合ノ結果準皇族ヲ以テ王公族ヲ認ムルトモ朝鮮ノ王公族ハ素ヨリ祖宗ノ皇胤ニ非スレテ擬スルニ皇室ノ家法タル典範ヲ以テスヘキ限ニアラサルナリ

抑併合ノ詔書ニ於テ特ニ王公族ニ関シ世家率循ノ道ハ別ニ軌儀ヲ定ムト勅セラレタルハ蓋シ皇室典範ノ性質ニ鑑ミ

別ニ皇室令ヲ以テ定ムルノ意ヲ示サレ
タルモノニ外ナラス

皇室典範ハ皇室ノ根本法規ニシテ憲法
ト相駢ムテ國家ノ大典ナリ漫リニ之ニ
改刪ヲ加フヘキニ非ス況ニヤ王公族ニ
関スル事項ハ其ノ性質上皇室典範ヲ以
テ規定スヘキモノニアラサルヲヤ宜ク
詔書ノ主旨ニ基キ皇室令ヲ以テ定ムヘ
キモノナリトス

四 皇族女ノ王公族ニ嫁スルハ皇

室典範ノ解釋ニ於テ妨ナレ

皇室典範第三十九條ニ「皇族ノ婚嫁ハ同
族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル
華族ニ限ル」トアリ皇室典範義解ハ之ニ
註釋ヲ加ヘテ曰ク「華族ノ家ニ婚嫁スル
コトヲ許スハ負淑ヲ擇フノ道ヲ廣ムル
ナリ而シテ又特ニ認許ヲ得タルノ家ニ
限ルハ名族右門ヲ擇ハムトナリ」ト然ラ
ハ王公族ハ一般臣民タル華族ノ上ニ在
リテ其ノ地位皇族ニ準スヘキモノナリ

既ニ名族右門トノ間ニ婚嫁ノ道アリト
 セハ準皇族タル王公族トノ婚嫁ヲ認ム
 ルハ當然ノ解釋ニシテ敢テ皇室典範ノ
 改正ヲ要スヘキニ非サルナリ

九月十日

長官

并

且如

長官

三十一